

中学校英語において正しい発音が身に付く音読指導の工夫

外国語班 神戸 智宏（中学校教諭）

研究の内容

目指す
生徒像

正しい発音で音読できる生徒

手だて 3

☆ 録音した自分の音読を聞いて評価する活動
自己評価：正しい発音で音読することができる

○教科書本文の音読を録音したものを聞き、自分の発音がどう聞こえるかを評価する。
○声の大きさ、上げ下げ、区切りについてそれぞれ振り返り、自己評価シートに記入する。
○自己評価を通して生徒一人一人が自分の課題を知り、正しい発音を身に付ける。
※生徒の自己評価に対し、教師は具体的なアドバイスをし自己評価を補足する。

自分の音読を聞いて、振り返りましょう。

自己評価の例

①声の大きさはどうでしたか。	ちよと小さかった。
②上げ下げはどうでしたか。	できていたと思います。
③文の区切りはどうでしたか。	「They both speak English.」 a, both と speakの間が空きすぎていた。

次の音読で意識して取り組みたいことは…
声の大きさと、文の区切りを意識して取り組みたいです。

手だて 2

☆ グループ内で音読し、評価し合う活動
相互評価：正しく発音するための課題を見付けることができる

○4～5名のグループ内で一人ずつ教科書の本文を読む。
○聞き手の生徒は聞いた音読を評価カードを用いて評価する。
○グループ内での評価を基に自分自身の改善すべき点に気づき、正しい発音で音読できるようになるための課題を見付ける。

<評価項目>

①声の大きさ、②上げ下げ、③区切り

() さんへ

声の大きさはどうだったか。	上手だと思ふ。
上げ下げはどうだったか。	上手だと思ふ。
文の区切りはどうだったか。	もう少しスラスラ読めばいいかなと思ふ。

相互評価の例

() さんへ

声の大きさはどうだったか。	いい、いい
上げ下げはどうだったか。	いい
文の区切りはどうだったか。	いい

1サイクル
3時間の
授業を3つ
の単元で
行った

手だて 1

☆ 教師の音読を聞き、読み方について意見を出し合う活動
グループ活動：英語特有の発音に気付くことができる

○教師の音読を聞き、どのような特徴があったかをグループ内で意見を出し合う。
※声の大きさ、文末上げ下げ（イントネーション）、区切り（チャンク）に気付かせる。

<英語特有の発音とは>

・母音や子音の種類や数が英語と日本語では異なっていること、また、英語では子音が続きたり子音が終わったりすることなど
・英語の文には基本的なイントネーションのパターンがあること
・英語はいくつかのまとまりに区切って話したり読んだりされることがあること

・読みかた①を聞いて、どんなことに気が付きましたか。

・声小さかった。
・静かだった。

学び合いの例

・読みかた②を聞いて、どんなことに気が付きましたか。

・1単語(棒読み)にはなっていました。
・アクセントがなかった。

・読みかた③を聞いて、どんなことに気が付きましたか。

・1個1個の語の間が空きすぎていた。
・スラスラ読めていけなかった。

※音読するときに意識すべきことは何か、きとめよう。

・し、かりてアクセントをつけて言う。
・声を大きく、は、きりと言う。
・間の取り方に気を付けて言う。

1～3の手だての中で
① 声の大きさ
② イントネーション
③ チャンク
の項目について注目させ
音読指導を行った

生徒の実態

・棒読みになってしまう
(イントネーションを意識していない)

・単語を一つ一つ区切ってしまう
(チャンクを意識していない)

成果と課題

- 正しい発音を意識して音読できるようになってきた
- 普段の会話練習にも発音が生かされるようになった
- 英語を口にするこへの抵抗感が払拭され、音読への意欲が高まってきた
- 学び合いの楽しさに気付く生徒が増えた
- 学び合い活動での意見がワンパターンになりがちであった
- 評価が具体的に記述できるような指示やワークシートの工夫が必要である